

気づき、考え、実行する さし人つつしん

唐津市立佐志小学校
学校だよりNO.7
令和3年6月8日
文責：校長 松野克己

5年生海の学習

本校は海洋教育パイオニアスクールとして2年前から海洋教育に取り組んでいます。主に5年生が総合的な学習として、地域の方の支援を受けながら様々な体験を行っており、6月8日には地引き網体験を行いました。(この様子は次号でお伝えします。)

それに先立ち6月4日(金)は、海や魚に対する予備知識を得るために海の学習を行いました。昨年度、説明をしてくださった玄海水産振興センターは現在、コロナによる外部活動の制限があったため、本校指導教諭の坂口先生が指導しました。

坂口先生は実家が漁業で子どもの頃から海に親しんでおり、魚についての知識が豊富です。この時間もまず、子どもたちが体験する地引き網体験の注意点を説明した後、様々な魚の種類や生態を映像を使って教えました。天然鯛と養殖鯛の見分け方、毒のある魚の種類など、子どもたちは目を輝かせて聞いていました。地引き網体験への意欲や関心をぐっと高めることができました。



プール開き



6月7日(月)、多くの子どもたちが楽しみにしていたプールびらきとなりました。この日は4年生がプール使用の日で、3時間目に1組が使いました。今年度の水泳指導については、校医さんの意見を聞いたり、他校の状況を確認したりしながら検討しました。その結果、次のような対応を行って実施することとしました。

- 空き教室等を利用して分散して更衣を行う。
- これまでの学年単位ではなく、学級単位で実施する。
- 安全確保のため、担任以外の職員も授業に入り監視を行う。

- シャワーは小グループで順番に行う。
- プールを広く使って密を防ぐ。
- 水の中でも、友だちと接触しない。

学級単位で級外職員も対応に入るため、回数は週1回程度となりますが、それだけに、子どもたちには水の感触をしっかりと味わって欲しいと思います。



発熱等、風邪症状の際のきょうだいの対応に関するお願い

現在、県内のどの学校においても、お子さん及びご家族に発熱や明らかな風邪症状が見られる場合は、新型コロナ感染防止の観点からお休みをお願いしています。確認となりますが、これは症状の見られる本人だけでなく、そのきょうだいも学校を休ませるということとなります。他校で、この点が徹底されていなかったということで、改めてお願いする次第です。

学校で発熱等の症状が見られた場合も、用心のために本人だけでなく、症状の見られないきょうだいも早引きをさせることとなります。ご理解とご協力をよろしくお願いします。

3年生玄海漬の学習



6月7日(月)の3校時と4校時、佐志中通にある玄海漬株式会社の高田社長ご夫妻に来ていただき、3年生が学級単位で玄海漬について学びました。地元の皆さんには言うまでもないことですが、玄海漬は鯨の軟骨を精製し酒粕につけ込んだ高級珍味です。高田さんからは、会社の始まりや製造過程だけでなく、鯨の種類や大きさなどについてもお話いただき、子どもたちはそちらの方に興味を示していました。私自身は次のような内容が印象に残りました。

- ・鯨とイルカの違いは種類ではなく大きさで分類される。(体長4 m以上が鯨)
- ・使用している軟骨はミンククジラの「カブラ骨」という頭部の骨である。
- ・酒粕は京都伏見から取り寄せている。

・合成保存料や着色料は一切使用していない。

お話を聞いた後、子どもたちは商品を一人ずついただき、それに手作りラベルを貼り付けるという活動をしました。その後、持ち帰っていますのでご賞味された保護者の皆さんもいらっしやると思います。

玄海漬は私が子どもの頃もたまたま食卓にありました。でも、酒粕の風味があまり好きではありませんでした。ところが、今回改めて食してみると、軟骨のコリコリ感だけでなく酒粕の風味もたいへんおいしく感じました。鯨そのものも食卓に上がることがほとんどない時代になりましたが、このような地元の名品がいつまでも残されていくといいと思いますし、子どもたちが大人になったとき「玄海漬ってうちの近くで作られたとばい！」という郷土の誇りに感じてくれるといいですね。



4年生社会科見学

6月4日(金曜日)には、4年生が『きらめく郷土・唐津学習事業費事業』により貸し切りバスを2台準備していただき、『唐津市清掃センター』と『久里浄水場』へと社会科見学に行ってきました。本年度は、コロナ対策として45座席ある大型バスを準備していただき、車内は一人ずつ互い違いに座ることができ、バスに乗り降りするときには手指消毒用アルコールで消毒を行いました。

『唐津市清掃センター』では、1日に140トンものごみが運ばれてくることや、ごみを燃やす時は、火ではなく、熱した砂を使われていることなど初めて知ることが多く、子どもたちは興味深く職員の方の話に耳を傾けていました。また、2カ月でたまったという粗大ゴミの量を目の当たりに大変驚いていました。

『久里浄水場』では、浄水場が365日24時間休まずに動いていることや、唐津市の地下には、660kmもの水道管が配置されていることを学びました。何より見学の最後に飲ませていただいた『できたての水』はとてもおいしく「ペットボトル持ってきて、家の人に持って帰りたいかった。」と言っている子もいました。

学校に帰ってからは、社会科見学で学んだことを新聞にして家族の方に伝えました。教科書や動画での学習をしていたこともありますが、やはり現地に行って五感を使って学んだことは子どもたちの心に深く残ったようでした。(文：4の1担任 山下)

